



令和元年度 水稻生育診断情報 No.4

(令和元年7月26日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(次回は8/21頃の予定)

現在の生育状況

◎作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年に比べ、草丈はやや短く、茎数は少ない。

「みずかがみ」の出穂期は、7月上旬～中旬の気温が低く、平年より1日遅い7月23日となった。

◎県内ほ場の「みずかがみ」では、7月20日頃を中心に出穂期を迎えており、5月上旬移植の「コシヒカリ」では、7月24日時点で出穂始め～出穂期となっている。

管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！

◎斑点米カメムシ類の防除は、カスミカメムシ類の発生が多い場合は乳熟期頃(出穂7～10日後)、大型カメムシ(ホソハリカメムシ等)が多い場合は糊熟期頃(出穂10～20日後)に行う！

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根气象台観測、平年は過去10年間の平均)

要素		最高気温	最低気温	日照時間	降水量
7月	上旬	かなり低い	やや低い	少ない	かなり少ない
	中旬	かなり低い	かなり低い	かなり少ない	かなり多い

(2) 近畿地方1か月予報【大阪管区气象台7月25日発表】

- 平年に比べ晴れの日が多い。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率50%。
- 降水量は、少ない確率50%。日照時間は、多い確率50%。
- 週別の気温は、1週目は、高い確率50%。
2週目は、平年並または高い確率ともに40%。

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査(7月20日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 草丈は「みずかがみ」「コシヒカリ」とも平年よりやや短い。
- 茎数は平年に比べ「みずかがみ」は14%、「コシヒカリ」は12%少ない。
- 葉色は平年よりやや濃く推移している。
- 「みずかがみ」の出穂期は7月23日で平年より1日遅かった。



7月19日時点の「みずかがみ」
茎数 423 本/m² (22.9 本/株)



7月19日時点の「コシヒカリ」
茎数 453 本/m² (24.5 本/株)

表1 令和元年(2019年) 水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
6/20	みずかがみ	45.7	44.3	103	36.9	487	555	88	410	39.3	41.7	94	39.3	9.5	9.7	-0.2	9.5
	コシヒカリ	46.5	44.2	105	38.1	568	568	100	433	42.3	41.9	101	39.9	9.5	9.4	0.1	9.3
7/1	みずかがみ	63.0	64.1	98	56.6	497	610	81	549	40.4	41.4	97	41.3	10.8	10.9	-0.1	11.0
	コシヒカリ	65.1	65.1	100	59.1	633	619	102	627	41.0	41.6	99	43.1	11.2	10.5	0.7	10.8
7/10	みずかがみ	75.8	79.4	95	78.8	450	546	82	519	40.6	40.1	101	41.5	12.2	12.3	-0.1	12.5
	コシヒカリ	79.2	80.3	99	77.6	538	578	93	613	37.8	37.4	101	41.2	11.9	11.6	0.3	12.0
7/20	みずかがみ	92.0	94.3	98	96.6	423	493	86	488	38.5	37.6	102	38.4	12.9	13.2	-0.3	13.8
	コシヒカリ	89.9	93.9	96	94.8	453	513	88	552	39.1	37.5	104	40.0	13.2	12.9	0.3	13.5

※移植日は5月10日(播種日:4月19日)。栽植密度は18.5株/m²、植付本数3本/株。

※平年は、H25~30年(6年間)の平均値。

表2 水稲作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

「みずかがみ」

生育ステージ	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月29日	6月29日	同日	7月1日
出穂期	7月23日	7月22日	1日遅い	7月23日

「コシヒカリ」

生育ステージ	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月1日	7月3日	2日早い	7月3日
出穂期	未	7月27日	—	7月26日

※移植日は5月10日(播種日:4月19日)。

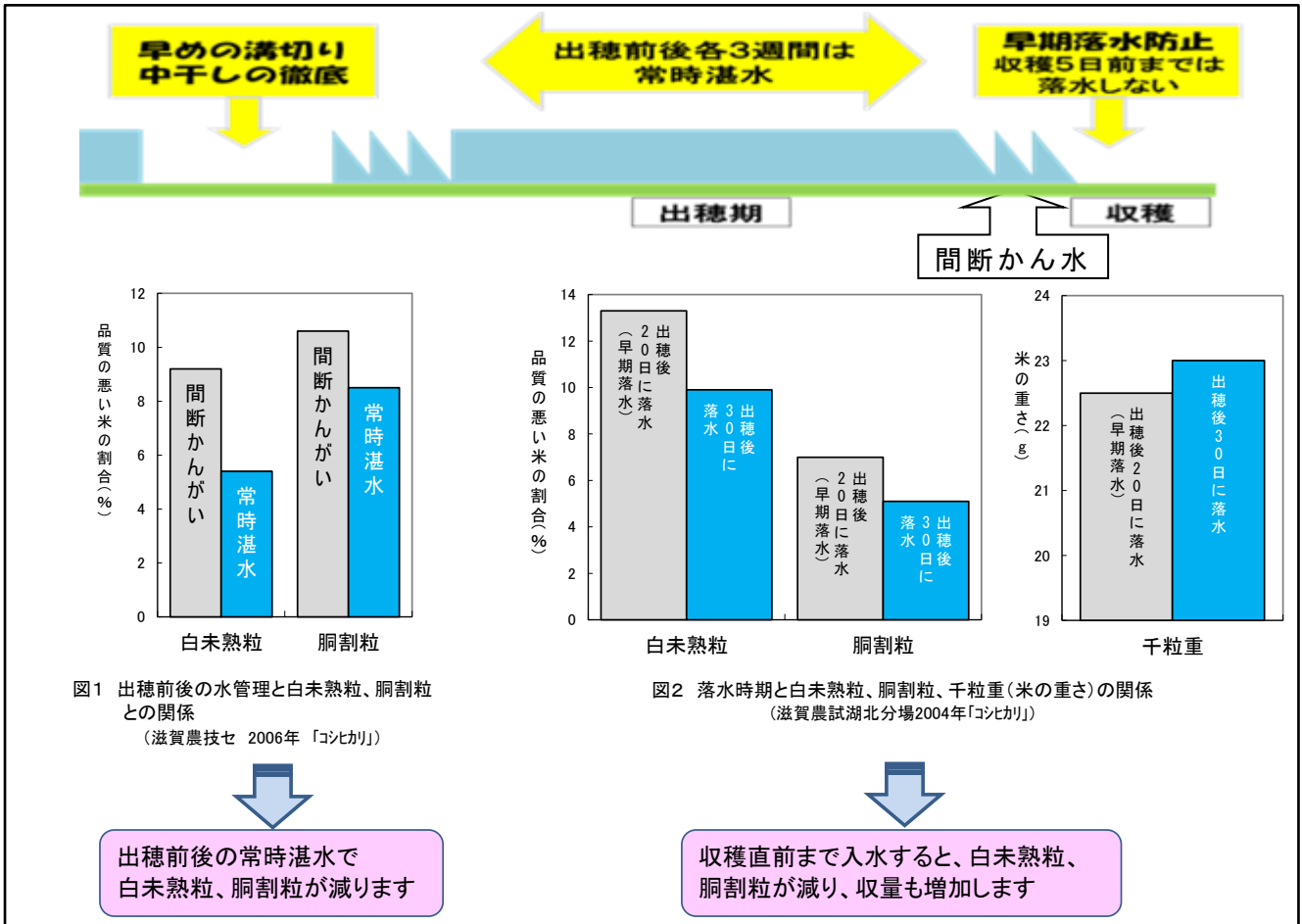
※平年は、H25~30年(6年間)の平均値。

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(2) 適期収穫

- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種（「コシヒカリ」等）だけでなく、中生品種（「秋の詩」等）でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。
 - 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂（籾）をしっかりと確認し、黄化籾が85～90%になった頃に収穫する（図3）。
- 特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

☆過去6年の登熟日数（水稻作況調査データより）

年次 \ 品種名	みずかがみ	コシヒカリ
平成25年～30年	32～34日	32～37日

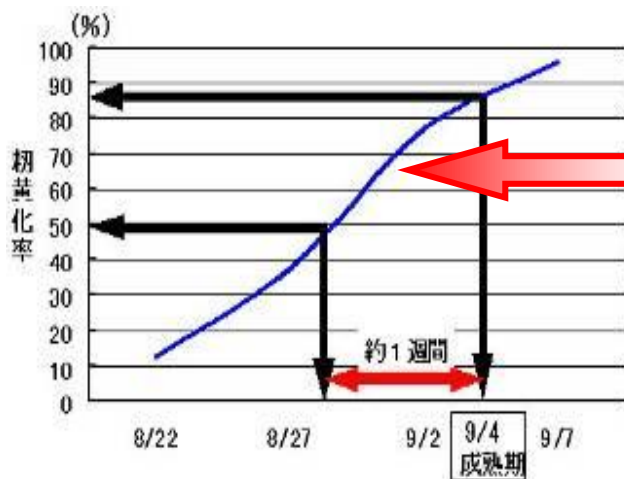


図3 成熟期前の糊黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化糊の標準見本色を基準に黄化糊と青糊を目視で計数。

(3) 病害虫防除

7月23日発表の「病害虫発生予報第7号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/yohou/304711.html>)

を参照

予報第7号より抜粋

穂いもち(発生時期: 平年並、発生量: 平年並)

- ①防除情報第5号を参照のこと。
- ②「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」は、発生しやすいので特に注意する。
- ③粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
- ④耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。



紋枯病(発生時期: 平年並、発生量: 平年並)

- ①前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- ②防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15~20%以上。
- ③病勢進展初期(幼穂形成期～穂ばらみ期)に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

斑点米カメムシ類（発生時期：やや早、発生量：やや多）

- ①防除情報第4号を参照のこと。
- ②出穂期に大型斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂10～20日後）に防除する。
- ③ただし、畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。

（斑点米カメムシ類の写真）



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ

【参考サイト】

農業技術振興センター

<https://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>

病虫害防除所

<https://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>

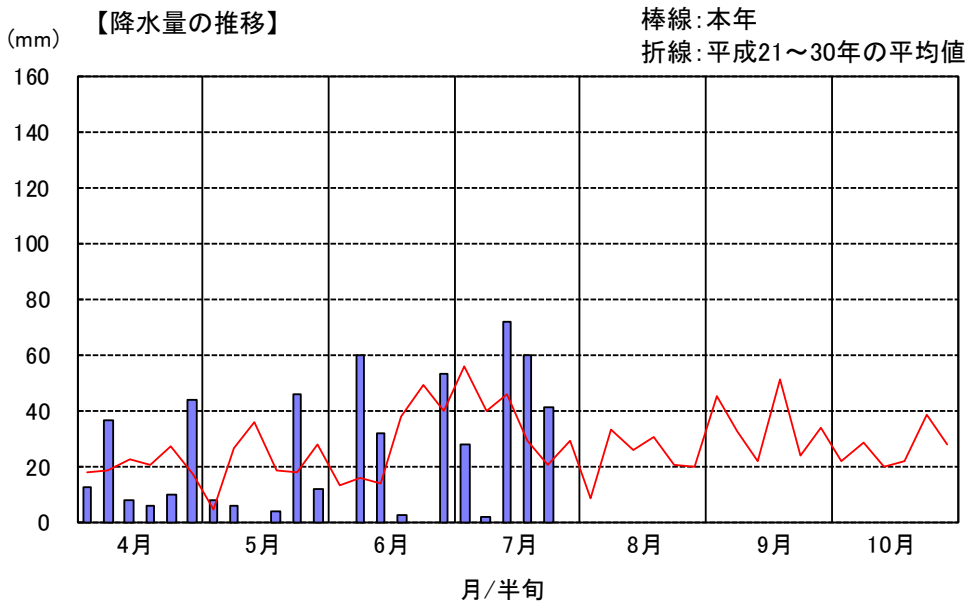
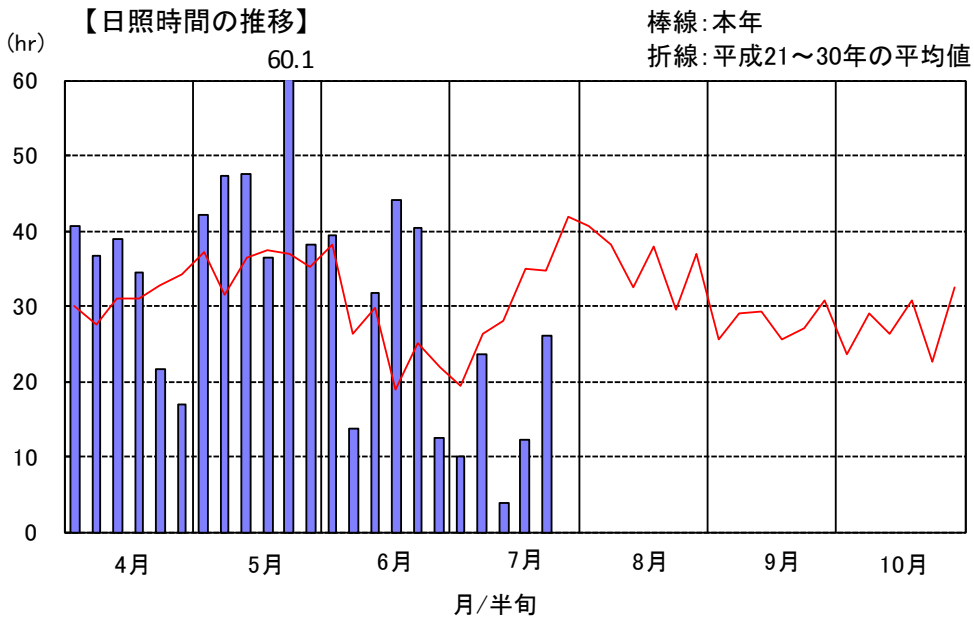
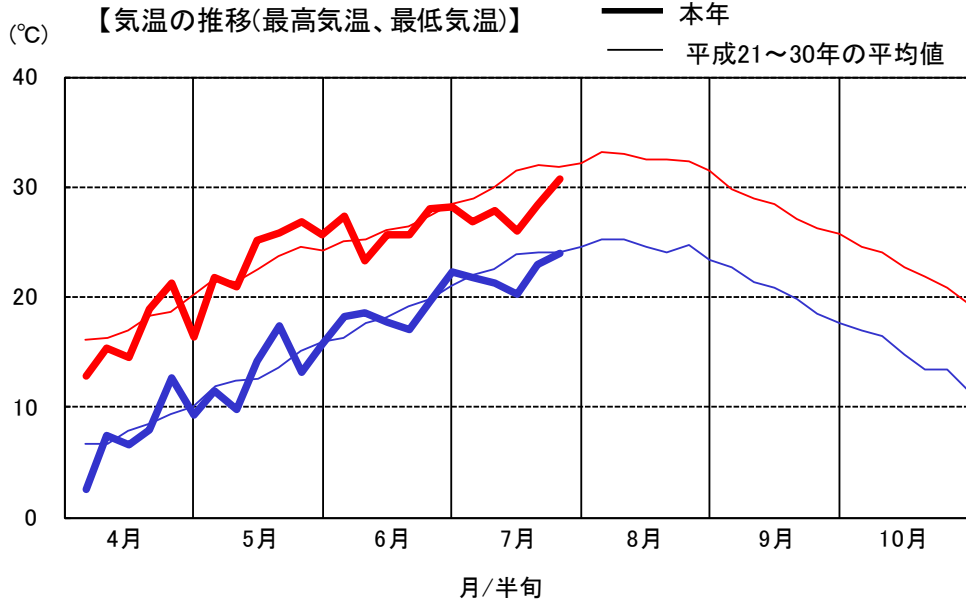
彦根地方气象台

<https://www.jma-net.go.jp/hikone/>

異常天候早期警戒情報

https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/?reg_no=0

令和元年(2019年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根气象台観測)



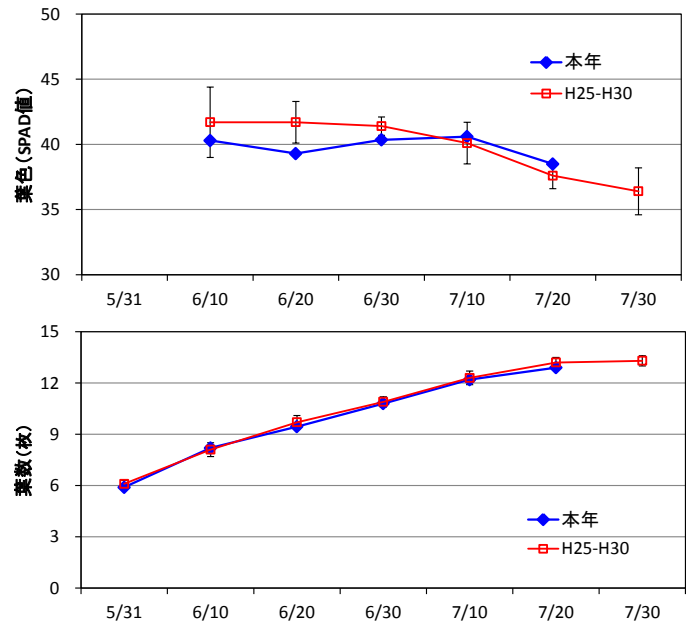
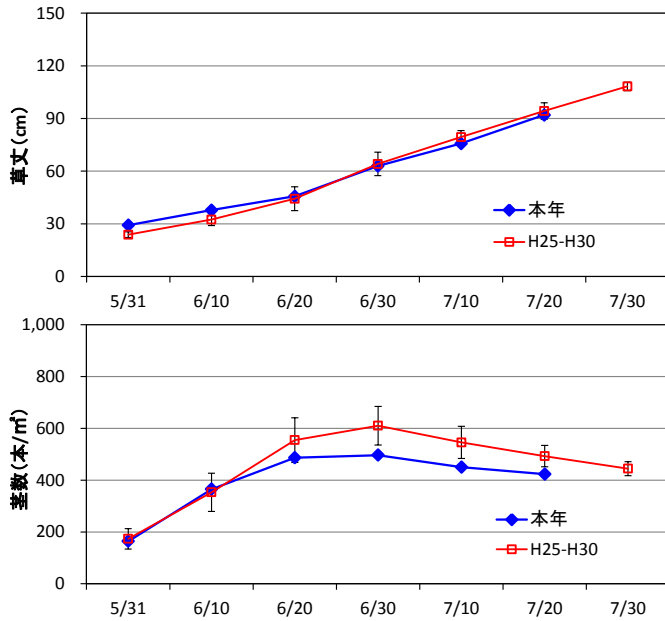
注) 平年は平成21~30年の平均値. 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値.

令和元年(2019年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

【みずかがみ】

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株



【コシヒカリ】

播種: 4月19日、移植: 5月10日、栽植密度: 18.5株/m²、植付本数: 3本/株

